



## 調理技能・文化の振興

たなか さだ お  
田 中 定 雄

(88歳)

住所

秋田市

昭和の初め、秋田市内の料亭に調理長として迎えられ、昭和12年、日本料理研究会秋田県支部長に就任してから、現在まで多くの後継者を育成するとともに、料理に関する著書を数回発行するなど食文化の向上に貢献している。

昭和24年、秋田市で初めて料理講習会を開設、以後大曲市、本荘市の3か所で生徒を教育訓練し、5年間で2,500人を社会に送り出した。

昭和28年から55年までは、皇族御来秋の節の御食事御調進の役を延べ11回にわたり献身的に務めた。

昭和46年、労働大臣許可「秋田調理士紹介所」開設後、調理士の就職、就業移動などに努力しているほか、秋田調理師庖清会会長として食材の吟味から用具の使い方、調理全般にわたる技能・技術の向上に寄与するとともに、園部流の古式をもって、日本料理の道を指導している。

現在は、秋田調理士紹介所長、秋田調理師庖清会会長をはじめ、(社)日本料理研究会名誉師範、(社)日本全職業調理士会技術参与秋田支部長などに就任し、調理を通じて技能と文化に寄与している。



## 林業の振興、緑化の推進

か が や り き じ  
加 賀 谷 力 司

(84歳)

住所

南秋田郡五城目町

昭和29年、「五城目町森林組合」（昭和44年、八郎潟町森林組合と合併し五城目森林組合となる。）設立と同時に組合長に就任し、現在も組合員の負託にこたえている。

昭和36年、秋田県森林組合連合会理事に選任されたが、昭和52年から14年間の長きにわたり会長を務め、組織強化、経済事業の充実等を図り、組合の発展に貢献するとともに、昭和54年から通算5年8か月間は、全国森林組合連合会理事として林業の振興に貢献した。

昭和63年から現在まで、秋田県緑化推進委員会理事長として、緑の募金による県土緑化運動の先頭に立ち、県植樹祭を毎年市町村と共催するなど、森林資源の造成、国土保全及び水資源のかん養に努めている。

さらに、古木などの診断、保存活動などの生活環境の緑化推進にも貢献している。これらの活動は、県内小中学生約2万人を擁する緑の少年団活動を通じても行われているが、緑化の推進に大いに貢献している。

このほか、昭和32年から平成元年までの通算6期、五城目町長として町政運営に努力する中で、林業振興、緑化推進については、入会林野の整備などを進めて計画的な造林を推進するとともに、全町植樹祭の実施により緑化の推進を図るなど、緑豊かな郷土づくりに寄与した。



## 俳句の普及・発展

たか せ 武 治 郎  
高 瀬 武 治 郎

(84歳)

住所  
秋田市

昭和23年、「秋田県俳句懇話会」の創立に参画し、以降、全県俳句大会、自選句集の発行、全県吟行大会の開催に貢献している。

昭和48年、秋田魁新報社の読者文芸（俳句部門）の選者となる。

平成8年からは、秋田県俳句懇話会の会長を2期4年にわたり努めるなど俳句関係諸団体の役職を歴任し、俳句の普及・指導に努力している。

また、紫星吟社、熟処句会、さきがけカルチャー俳句会、やまどり句会、濠俳句会、花心句会、あかね句会、竹の子句会などの俳句団体の育成・指導に当たっており、俳句の普及・発展に貢献している。



## 写真の普及・発展

いかり や 谷 きん いち ろう  
碓 谷 欽 一 郎

(82歳)

住所  
秋田市

昭和45年、「秋田県写真協会」の設立発起人代表となり、事務局長、副会長を長年にわたり務めた後、平成9年からは会長としてアマチュア写真界をリードし、技術の向上や後継者の育成、写真関係の各種行事を企画・開催し、写真の普及・発展に貢献している。

昭和56年に秋田県芸術文化協会常任理事（兼）事務局長に就任したが、協会の組織強化、事業拡大に努力した結果、昭和61年には新たに社団法人として発足させた。

昭和63年から県内社会福祉施設への写真寄贈運動を呼びかけ、現在までに、5,640枚を寄贈しているが、さらに10,000枚を目標として尽力している。

平成11年、(社)秋田県芸術文化協会事務局長として、新築落成の秋田赤十字病院に、県内美術関係部門から寄付された写真・絵画760点を寄贈し、病院を訪れる人々や入院患者から感謝されている。

現在は写真協会の会長や美術・新舞踊関係の事務局長として活躍し、文化の振興に寄与している。



## 民謡の普及・発展

は せ べ きん じ  
長 谷 部 金 司

(79歳)

住所

秋田市

昭和37年から浅野梅若氏に師事して民謡を修業し、昭和46年、「秋田県民謡同好会連合会」を結成、昭和53年には「日本郷土民謡協会秋田地区連合会」を結成し、さらには昭和55年に「(財)日本民謡協会秋田県連合会」を結成し、事務局長として努力した。

また、同年には秋田民謡界各会派の相互研修と秋田民謡の統一を目的として、3連合会をまとめた「秋田県民謡協会」の結成にも、事務局長として努めた。

昭和60年、「秋田民謡碑」建立に参画し、毎年民謡碑まつりを企画・実施している。

昭和62年、(財)日本民謡協会に加盟、平成4年には同協会の秋田県連合会理事、日本郷土民謡協会秋田県連合会常任理事にそれぞれ就任、さらに平成9年には秋田県民謡協会理事長に就任して現在に至っている。

貴重な文化遺産として受け継ぎ唄い継いできている民謡王国にふさわしい秋田民謡界の普及・発展に貢献している。



## 歴史（維新史）の研究

よし      だ      しょう      じ  
吉      田      昭      治

(71歳)

住所  
秋田市

本県における江戸後期から明治期に至る歴史研究の第一人者であり、特に、維新史を中心とした研究・記録・読物などの著作を通じ、歴史の解明に多大な功績を挙げている。

また、秋田市の各公民館、県グレートアカデミー、コミュニティカレッジ、生涯学習センター、青年の家、県内町村の各公民館の講師を務め、県民の維新史の理解に大きな影響を与えた。

昭和50年からは、創刊60余年の伝統を有する県内唯一の随筆同人誌「叢園」の中心的な存在として、同誌の存続・発展に寄与した。

平成8年から3年間にわたり秋田魁新報に「維新の群像」を連載するとともに、著作・共著として、「金輪五郎―草奔・その生と死」、「明治維新秋田人物語」、「秋田の維新史」、「風雪期の人々」、「連座―シーボルト事件と馬場為八郎」、「戊辰・亀田藩小史」、「戊辰戦争秋田県関係殉難者姓名録」などがある。

平成10年、戊辰130周年秋田県記念事業の副会長として、県内各地域における多彩な事業を成功に導くとともに、平成11年に刊行された「戊辰戦争130周年記念誌」の編集者の中核として、資料価値の高い「殉職者芳名録」、「略日譜」をまとめた。



## 教育の振興、 コンクリートの研究

とく だ ひろし  
徳 田 弘

(68歳)

住所  
秋田市

昭和46年、秋田大学に奉職し、教育・研究分野に尽力するとともに、コンクリートの研究を通して多くの人材の育成に努めている。

平成元年、「秋田県内産骨材有効活用技術検討会」を組織し、建設基幹資材であるコンクリート用骨材の枯渇化に対処するため、県内産骨材有効活用技術の開発に貢献した。

平成3年から7年まで、(財)秋田テクノポリス開発機構(現財)あきた産業振興機構)理事として、地域技術起業化推進助成事業における新製品・新技術開発などの支援を行い、本県の工業振興及び産学官連携による先端技術の開発に寄与した。

平成8年、秋田大学学長として大学の管理運営に当たり、本県の高等教育の発展・充実に寄与しているほか、平成11年、秋田県立大学運営協議会会長として、自らの経験を踏まえ、貴重な提言や助言を行い、県立大学の発展・充実に貢献している。



## かけ唄の保存・伝承

ろくごうまち うたほぞんかい  
六郷町かけ唄保存会 (代表 熊谷 義一)

住所

仙北郡六郷町

古い時代から県南の神社を中心として伝わる「かけ唄」は、特定の節まわしに即興の歌詞をつけ、2人で競い合って勝負を決める民俗行事である。

古代歌謡「歌垣」の伝統の流れを汲む「かけ唄」を末永く保存するために、昭和27年に、「六郷町かけ唄保存会」が愛好者有志で結成されたが、現在は、会員550人を数えるまでになり、後継者の育成活動を行うなど、「かけ唄」の保存・伝承に努めている。

毎年、8月23日の熊野神社例祭において、「かけ唄」の同好者が集い、「全県かけ唄大会」が盛大に開催されており、県内外から訪れる約2,000人もの聴衆を楽しませている。